



新年あけましておめでとうございます。
 昨年は新型コロナウイルスが蔓延し、多くの方が不安や、生き辛さを感じた年であったと思います。
 そんな中、ほんとうに大切なものは何か？大事なことは何か？変えてはいけないものは何か？が問われていくように思います。
 『仏道に入る根本は信をもつてもとなす』
 まずは手を合わせ理屈ぬきで「南無妙法蓮華經」と唱えましょう。
 『法華經を信ずるものは冬のごとし』
 冬は必ず春となる』
 本年もどうぞよろしく
 お願い申し上げます。



～たくさんの方を塔婆を
 申し御先祖に感謝し
 経木塔婆を流し～



～お会式・総代、婦人会により
 須み上げられた餅柱～



～各事座つりもり間隔を
 行して堂内参詣者よる
 各事座つりもり間隔を
 行して堂内参詣者よる
 各事座つりもり間隔を
 行して堂内参詣者よる

施餓鬼会・秋彼岸会・御会式の
 各行事は、マスク着用、手指消毒、検温、飲食会食の中止など対策をとりながら、なるべく例年に近い法要となるよう工夫いたしました。
 各行事、大勢の参詣者が心を一つにして読経し、お題目と団扇太鼓が堂内に響きわたり、大聖人さまの御報恩と御先祖様への感謝の気持ちで心が満たされました。一日も早いコロナ禍の収束を願うばかりです。



当山什物の(天台大師)掛け軸

ます。

『大師講』十二月二十四日
 今年最後の法要「大師講」を執り行いました。
 大師講とは、天台大師様のご命日に、法華經を誦誦し、御報恩感謝する行事です。
 天台大師智顛は、中国のお釈迦さまといわれた偉大な宗教家で、經典のすべての中で法華經が一番尊いお経であることを確信されました。
 その經典が伝教大師最澄により日本に伝わり、比叡山で学ばれた日蓮大聖人により、『南無妙法蓮華經』と唱えることにより、すべての人々を救うことができるお経であることを、今日まで伝えております。このように私も法華宗徒は、法華經を伝えてくださった天台大師と伝教大師を尊崇

第四十九回 北陸教区
檀信徒懇談会
 十月三日(日)
 於・檜原 上行寺

令和三年六月六日(日)
 第四百十三回
 北陸教区 題目講
檜原 上行寺で開催!!
 この機会に是非御参詣ください

昨年コロナ禍の中、長年続けておりました当山の行事を、どのような形で遂行していくか、大変悩みました。しかしながら、寺総代役員・婦人会とそれぞれの行事を行うことができましたこと、深く感謝いたします。これも、長年法華經に帰依し御先祖様を尊ぶ上行寺檀家の強い心の賜であると感じます。住職である私も檀家の皆様からの力を戴き、さらに精進に励みたいと思っております。本年も、一つ一つのことを大事に、大切に取り組んでいきたいと思っております。

令和3年度	厄年
男 25歳	平成9年生
42歳	昭和55年生
女 19歳	平成15年生
33歳	平成元年生
還暦	男・女
61歳	昭和36年生

除厄開運
 お日待・節分会
 一月二十四日(日)
 十時より

厄除け・交通安全等
 当山でぜひ厄払いを!!